

災害の概況

(平成24年)



鳥取県西部広域行政管理組合
消防局

目 次

(ページ数)

災害概況について	1
I 火災概況	3
1 火災の現況と最近の動向	3
別図Ⅰ－ 1 火災件数の推移と傾向図	3
別表Ⅰ－ 1 火災総括表	4
2 出火状況	5
別図Ⅰ－ 2 火災種別ごとの件数と構成比率	5
別図Ⅰ－ 3 月別の火災種別ごと出火件数	5
別図Ⅰ－ 4 市町村別火災件数と構成比	6
3 火災による死傷者の状況	6
別表Ⅰ－ 2 火災種別死傷者発生状況	6
4 出火原因	7
別図Ⅰ－ 5 火災種別ごとの主な火災原因	7
別表Ⅰ－ 3 市町村別火災状況	8
別表Ⅰ－ 4 過去5年間の市町村別火災件数	9
II 救急概況	10
1 救急出動件数、救急搬送状況	10
2 市町村別救急活動状況	10
3 傷病程度別搬送状況	10
4 年齢別搬送状況	10
5 署所別救急活動状況	10
6 月別救急活動状況	10
7 現場到着所要時間、収容所要時間	10
8 応急手当実施状況	10
9 高度救命処置状況	10
10 救急講習件数の推移	10
11 市町村別救急活動の推移	10
別図Ⅱ－ 1 事故種別救急出動状況	11
別図Ⅱ－ 2 事故種別救急搬送状況	11
別図Ⅱ－ 3 過去5年間の救急推移	12
別図Ⅱ－ 4 市町村別救急活動状況	12
別図Ⅱ－ 5 傷病程度別搬送状況	13
別図Ⅱ－ 6 年齢別搬送状況	13
別図Ⅱ－ 7 署所別救急活動状況	14
別図Ⅱ－ 8 月別救急活動状況	14

別図Ⅱ－ 9	現場到着所要時間	15
別図Ⅱ－10	収容所要時間	15
別図Ⅱ－11	応急手当実施状況	16
別図Ⅱ－12	高度救命処置状況	16
別図Ⅱ－13	医師引き継ぎ時の状況	16
別図Ⅱ－14	過去5年間の救急講習件数推移	17
別図Ⅱ－15	過去5年間の救急講習人員推移	17
別表Ⅱ－ 1	応急手当指導員・普及員の養成	17
別表Ⅱ－ 2	過去5年間の市町村別救急件数	18

Ⅲ 救助概況	19
1 事故種別救助出動状況	19
2 事故種別救助活動状況	19
3 事故種別救助人員状況	19
4 管轄別救助活動状況	19
5 市町村別救助活動状況	19
6 月別救助活動状況	19
別図Ⅲ－ 1 事故種別救助出動状況	20
別図Ⅲ－ 2 事故種別救助活動状況	20
別図Ⅲ－ 3 事故種別救助人員状況	21
別図Ⅲ－ 4 管轄別救助活動状況	21
別図Ⅲ－ 5 市町村別救助活動状況	22
別図Ⅲ－ 6 月別救助活動状況	22

Ⅳ 119番着信概況	23
1 着信件数の推移	23
2 月別の着信状況	23
3 電話種別による通報状況	23
4 携帯電話からの着信状況	23
5 時間帯別119番通報の着信状況	23
別表Ⅳ－ 1 119番着信件数の推移	24
別表Ⅳ－ 2 月別119番着信状況	24
別表Ⅳ－ 3 電話種別による119番着信件数の推移	25
別表Ⅳ－ 4 電話種別による通報状況	25
別表Ⅳ－ 5 携帯電話からの着信状況	26
別表Ⅳ－ 6 携帯電話の消防機関別転送状況	26
別図Ⅳ－ 7 時間帯別着信状況	26

災害概況について

I 火災概況

平成24年中の火災件数は、115件で前年に比べ8件の増加となりました。

建物火災が3件、その他火災が13件増加し、林野火災は1件、車両火災は7件の減少となりました。

その他火災については、39件のうち4月と8月に雨量が少なく好天が続いたことで、この2ヶ月で6割の22件が発生しています。

火災件数は前年に比べ8件増加しましたが、焼損床面積は1,075㎡減少しています。これは、全焼棟数及び半焼棟数の減少と大きな工場火災がなかったことによるものです。

建物火災1件当たりの損害額は前年に比べ半分以下となっています。

火災による死者は6人で、前年より1人減少しました。6人のうち5人が建物火災によるもので、早朝の4時から5時の間に3人が亡くなっています。

年齢別では、65歳以上の高齢者はなく、20歳代が3人、40歳・50歳・60歳代がそれぞれ1人となっています。

死に至った経過は、逃げおくれ1人、放火自殺2人、その他不明3人となっています。

負傷者は22人で、前年より9人の増加となりました。負傷者のうち9人が65歳以上の高齢者の方で、半数以上の12人が消火の際の火傷、煙を吸うなどで負傷しています。

住宅用火災警報器の設置義務化後、住宅火災、警報器が作動し早期に火災に気づいた事例が年々増加しています。

24年中は、火災発生時に警報器が作動した事例が12件あり、建物を全焼した火災は1件となっています。

住民に対する日頃からの火災防止の啓発、万一火災が発生した場合に延焼拡大を防ぐための防災製品の普及、初期消火の為に住宅用消火器の紹介、引き続き住宅用火災警報器が未設置である住宅に対する設置推進及び設置後の維持管理について広報活動をしていくことが重要と考えます。

II 救急概況

救急出動件数は9,951件(123件の増・+1.3%)で、救急搬送人数は9,341人(120人の増・+1.3%)で、過去最多となっています。

事故種別ごとの出動件数は、急病が6,088件(61.2%)と半数以上を占め、次いで一般負傷1,373件(13.8%)、転院搬送1,221件(12.3%)、交通事故868件(8.7%)の順となっています。

年齢別の搬送人数は、65歳以上の高齢者が5,646人(60.4%)と全搬送人数に占め、今後も少子高齢化の進展に伴い更に割合が増加することが予測されます。

心肺停止傷病者に対して、家族等による応急手当の割合が49%となっています。救急現場での早期の応急手当が救命のチャンスを拡大しますので、住民への心肺蘇生法の普及やAEDの設置が不可欠です。

Ⅲ 救助概要

救助出動件数は168件(9件の増・+5.7%)、救助活動件数は118件(12件の増・+11.3%)となっています。また、救助人員は96人(10人の増・+11.6%)です。

事故種別毎の救助出動件数を見ると、交通事故が74件(44.0%)と最も多く、次いでその他の事故が46件(27.4%)、火災が30件(17.9%)、水難事故が10件(6.0%)、建物等による事故が4件(2.4%)、機械による事故が4件(2.4%)となっています。

救助人員では交通事故が最も多く49人(51.0%)、次いでその他の事故33人(34.4%)、火災が5人(5.2%)の順となっています。

大規模災害時には、県内外の消防機関、医療機関、防災機関、国、県、市町村などの迅速な連携活動が必要不可欠です。

Ⅳ 119番着信状況

平成24年の総着信件数は13,358件(357件の減・-2.6%)あり、平成20年より減少傾向となっていましたが、平成22年より増加傾向を示しています。通報種別毎にみると、火災(101件の減・-50.7%)、警戒(89件の減・-30.3%)、問合せ(301件の減・-30.1%)、間違い(77件の減・-12.5%)、悪戯(42件の減・-35%)は減少しましたが、救急(129件の増・+1.3%)、救助(17件の増・+22.9%)、訓練等(45件の増・+2.6%)などが増加しています。

電話種別による119番着信状況は、固定電話が6,430件(571件の減・-8.8%)、携帯電話が4,004件(153件の減・-3.8%)、IP電話が2,924件(367件の増・+12.5%)となっており、近年IP電話による通報件数が増加しています。

問合せや悪戯等を除く災害通報は9,926件で、このうちIP電話を含む固定電話による通報が7,047件(71.0%)、携帯電話が2,879件(29.0%)となっています。また、災害種別ごとに電話種別(固定電話、携帯電話)をみると、火災は固定電話90件(45.2%)、携帯電話109件(54.8%)、救急は固定電話6,894件(72.0%)、携帯電話2,670件(28.0%)、救助は固定電話24件(32.4%)、携帯電話50件(67.6%)、警戒は固定電話39件(43.8%)、携帯電話50件(56.2%)となっています。

火災、救助、警戒など、屋外で発見されやすい火災や交通事故、たき火といった多くの人の目につくものは、携帯電話による通報比率が高くなっており、自宅や屋内などで発生する急病などの救急通報は、固定電話が多く利用されているという現象が現れています。

携帯電話等の急速な普及により、通報者が今いる場所が分からないことがあり、災害発生場所の聴取に時間がかかる場合がありますが、位置情報通知システムが導入されたことにより、GPS機能を備えた携帯電話からの119番通報は、発信場所の位置情報を取り込み正確な場所を把握することが可能となったため、より迅速な出動指令が行われ、今後もその機能がさらに発揮されるものと考えています。

I 火災概況

(平成24年1月～12月)

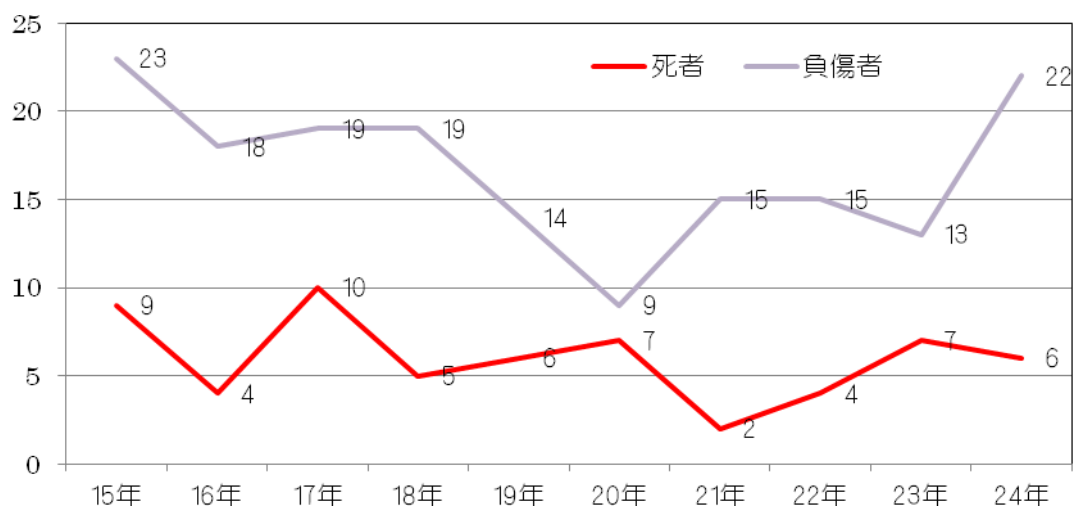
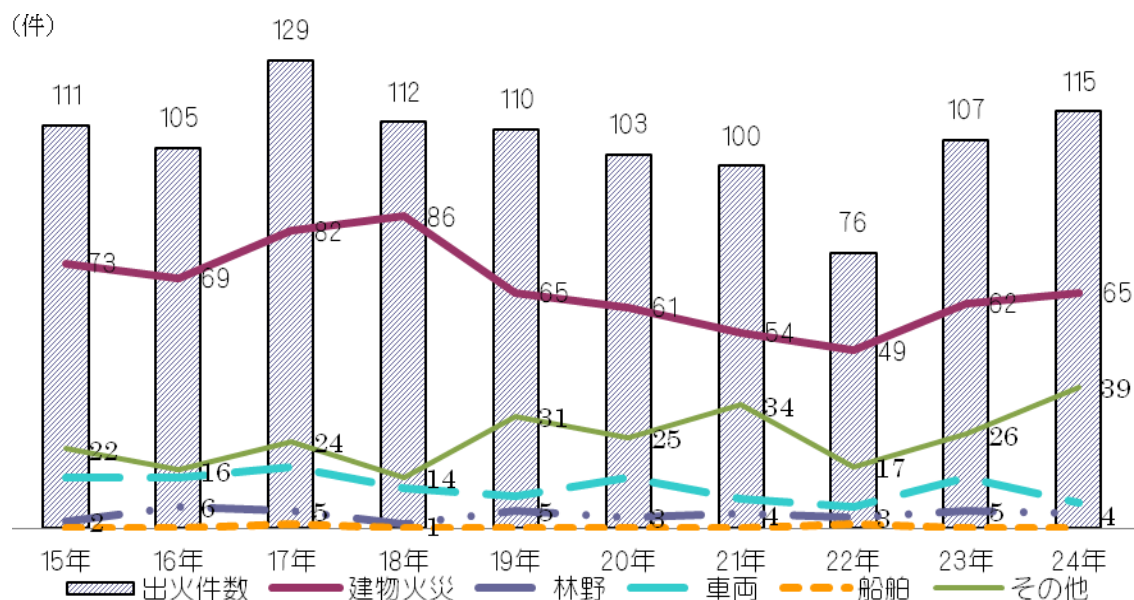
1 火災の現況と最近の動向

この10年間の出火件数をみると、年間平均出火件数は106.8件で、西部広域消防発足以来最も少ない76件を記録した平成22年を除き、おおむね平均値に近い件数となっています。

平成24年中の火災件数は115件と前年に比べ8件（7.5％）の増加となっています。

また、火災による死者数は過去10年間の平均は6.0人で、平成17年に10人の最多を記録した後、平成21年には2人まで減少しましたが、平成24年は6人の死者が発生し、前年に比べ1人（14.3％）減少しています（別図I-1、別表I-1参照）。

別図I-1 火災件数の推移と傾向図



別表Ⅰ－１ 火災総括表

区 分	単 位	平成 1 5 年	平成 2 3 年	平成 2 4 年	増 減	増 減 率
出火件数		111	107	115	8	7.5
建物火災		73	62	65	3	4.8
林野火災		2	5	4	-1	△ 20.0
車両火災		14	14	7	-7	△ 50.0
船舶火災		0	0	0	—	—
その他火災		22	26	39	13	50.0
焼損棟数	棟	99	101	97	-4	△ 4.0
全 焼		23	33	22	-11	△ 33.3
半 焼		11	10	3	-7	△ 70.0
部 分 焼		37	33	29	-4	△ 12.1
ぼ や		28	25	43	18	72.0
建物焼損床面積	m ²	3,803	5,497	4,422	-1,075	△ 19.6
1件当たり焼損面積	m ²	52	89	68	-21	△ 23.3
建物焼損表面積	m ²	119	175	143	-32	△ 18.3
林野焼損面積	a	6	21	17	-4	△ 19.0
死 者	人	9	7	6	-1	△ 14.3
負傷者	人	23	13	22	9	69.2
り災世帯数	世帯	62	52	56	4	7.7
全 損		17	11	17	6	54.5
半 損		10	7	2	-5	△ 71.4
小 損		35	34	37	3	8.8
り災人員	人	191	146	125	-21	△ 14.4
損 害 額	千円	145,855	207,316	97,851	-109,465	△ 52.8
建物火災		143,834	196,727	95,686	-101,041	△ 51.4
1件当たり損害額		1,970	3,173	1,472	-1,701	△ 53.6
林野火災		0	462	295	-167	△ 36.1
車両火災		1,588	9,914	1,753	-8,161	△ 82.3
船舶火災		0	0	0	—	—
その他火災		433	213	117	-96	△ 45.1
爆 発		0	0	0	—	—
出 火 率	件/万人	4.56	4.11	4.72	0.61	—

(備考)

- 1 各年の数値は、1月～12月に発生した火災を集計したもの。
- 2 「建物火災」とは、建物またはその収容物が焼損した火災をいう。
- 3 「林野火災」とは、森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。
- 4 「車両火災」とは、自動車車両、鉄道車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災をいう。
- 5 「船舶火災」とは、船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。
- 6 「その他火災」とは、建物火災、林野火災、車両火災及び船舶火災以外の火災（空地、田畑、道路、河川敷、ごみ集積場、屋外物品集積所、軌道敷、電柱類の火災）をいう。
- 7 死者には、火災により負傷した後、48時間以内に死亡した者を含む。
- 8 出火率とは、人口1万人当たりの出火件数をいう。

2 出火状況

(1) 建物火災は火災全体の57%

総出火件数115件について、その構成比率をみると、建物火災が全体の57%で最も高い比率を占め、その次にその他火災となっています。

(別図I-2参照)

(2) 建物火災1件当たりの損害、焼損面積は減少

建物火災の1件当たりの損害額は前年比の53.6%減少し、焼損面積も23.3%の減少となっています。

(別表I-1参照)

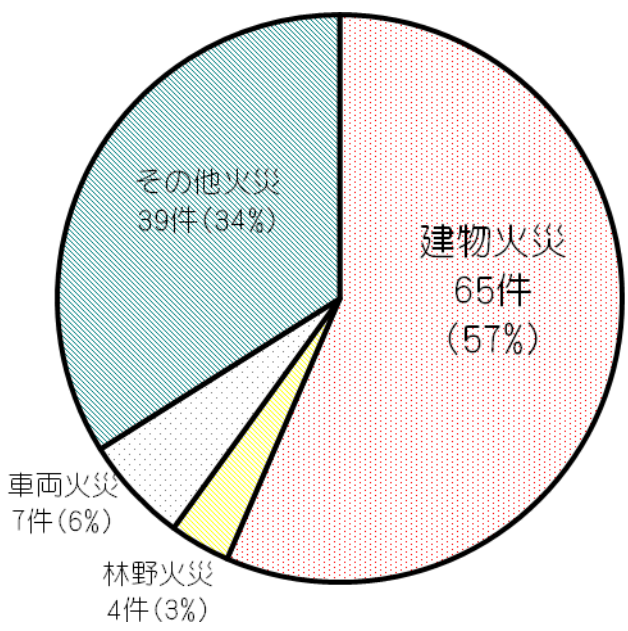
(3) その他火災は4月と8月に多く発生

月別の火災種別ごとの出火件数をみると、その他火災については39件のうち4月と8月で22件(56.4%)発生しています。出火箇所は田畑、空地、敷地内で23件(58.9%)を占めています。

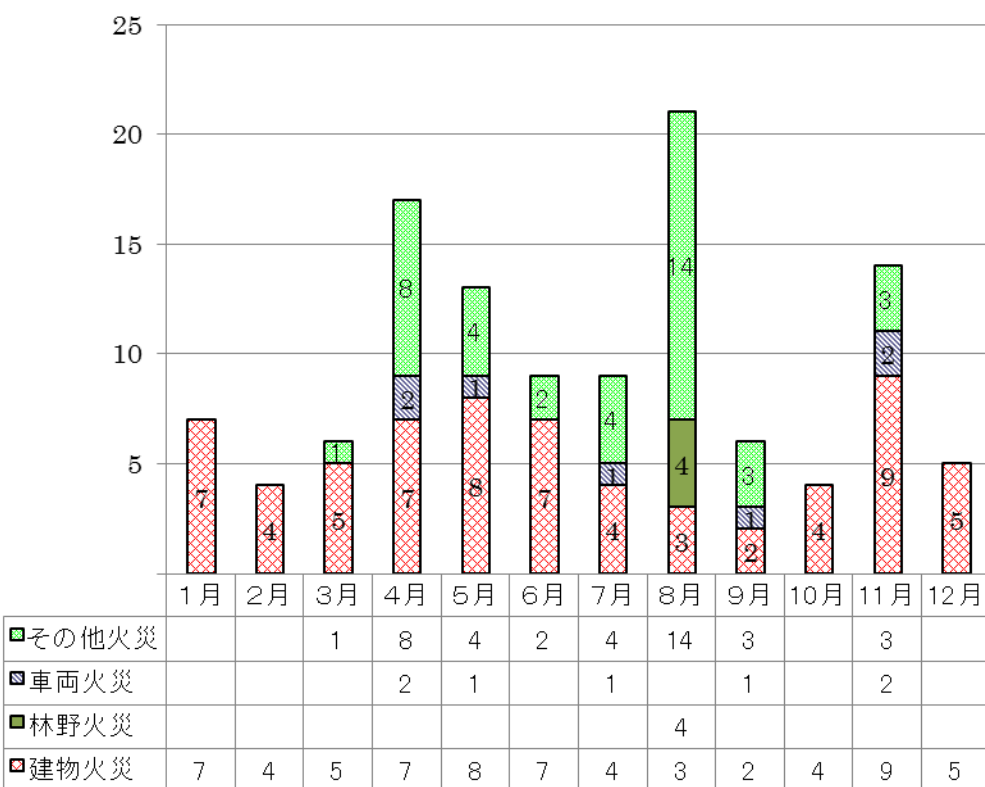
建物火災は11月の9件(13.8%)が最多で、9月の2件が最小となっています。

(別図I-3参照)

別図I-2 火災種別ごとの件数と構成比率



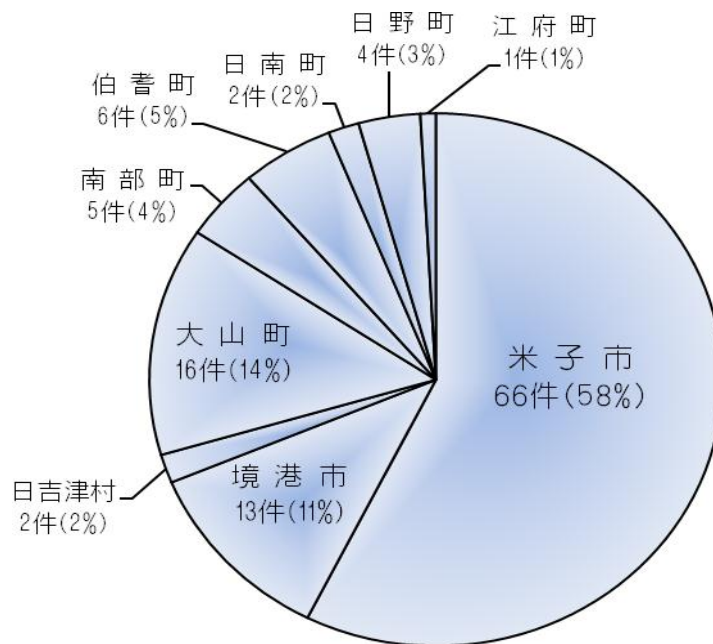
別図I-3 月別の火災種別ごと出火件数



(4) 市町村別火災状況

火災件数を市町村別でみると、米子市が最も多く66件（58%）、次いで大山町16件（14%）、境港市の13件（11%）となっています。最も少なかったのは江府町の1件です。（市町村別火災概況一覧表は別表Ⅰ－3、Ⅰ－4については文末に添付）

別図Ⅰ－4 市町村別火災件数と構成比



3 火災による死傷者の状況

(1) 死者の状況

火災による死者数は6人で、前年に比べ1人（14.3%）減少し、火災種別では建物火災による死者が5人（83.3%）となり、1人はその他火災によるものです。

死に至った経過は、3人（50%）が経過不明、次いで放火自殺2人（33%）、逃げ遅れ1人（17%）となっています。

(2) 負傷者の状況

負傷者は22人で前年に比べ9人（69.2%）増加しました。

負傷者のうち18人（81.8%）が建物火災で発生し、車両火災、その他火災でそれぞれ2人発生しています。（別表Ⅰ-2 参照）

別表Ⅰ－2 火災種別死傷者発生状況

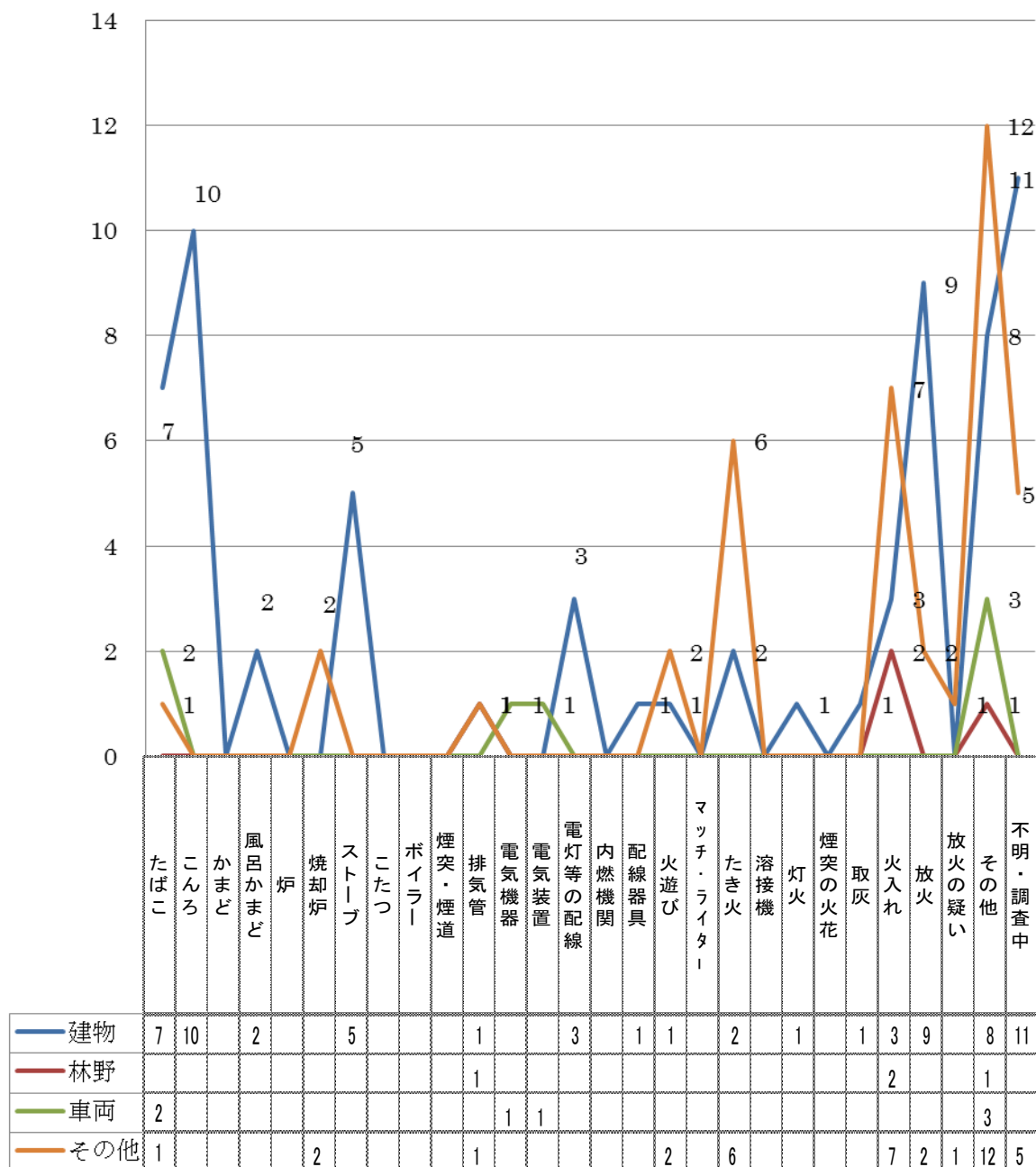
	合計	建物火災					車両火災	その他火災
		住宅	併用住宅	共同住宅	飲食店	その他		
死者	6	1		3		1		1
死者(6～64歳)	6	1		3		1		1
負傷者	22	10	3	1	1	3	2	2

4 出火原因

出火件数 115 件の出火原因を見ると、火入れ及び放火又は放火の疑いの合計数が 12 件（10.4%）、次いで、たばこ、こんろがそれぞれ 10 件（8.7%）となっています。

建物火災の主な原因をみると、こんろの次に放火又は放火の疑い、たばこなどで火気の取り扱いの不注意や不始末から発生しています。（別図 I－5 参照）

別図 I－5 火災種別ごとの火災原因



別表Ⅰ－3

市町村別火災状況

(平成24年1月～平成24年12月)

消防本部名

鳥取県西部広域行政管理組合

消防局

市町村名	火災件数							焼損面積			焼損棟数	り災世帯数	り災人員	死傷者			損害額 (千円)
	合計	前(一)年 内件数は	建物	林野	車両	船舶	その他	床面積 ㎡	表面積 ㎡	林野				死者	負傷者		
															30日死者	負傷者	
米子市	66	(52)	42		4		20	2,032	80		62	1		16			58,831
境港市	13	(18)	6		1		6	48	1		6	2		1			6,179
日吉津村	2	(1)	1		1			240	25		7	1					4,556
大山町	16	(12)	6	1			9	1,219	1	12	6	2		1			5,977
南部町	5	(5)	3	1			1	98			3						1,996
伯耆町	6	(4)	2	2			2	112	1	5	2				3		8,773
日南町	2	(8)	2					190	33		6				1		2,455
日野町	4	(3)	2		1		1	483	2		4						9,082
江府町	1	(4)	1								1						2
合計	115	(107)	65	4	7		39	4,422	143	17	97	6		22			97,851

前年同期管内合計

	107	62	5	14	26	5,495	175	21	101	52	146	7	13	207,749
--	-----	----	---	----	----	-------	-----	----	-----	----	-----	---	----	---------

出火原因 (管内合計)

	合 計	たばこ	こんろ	かまど	風呂	炉	焼却炉	ストーブ	こたつ	ボイラー	煙突	排気管	電気機器	電気装置	電灯配線	内燃機関	配線器具	火あそび	マッチ等	たき火	溶接機器	灯火	衝突火花	取灰	火入れ	放火	放火疑	その他	不明・調査中
平成24年	115	10	10		2		2	5				3	1	1	3		1	3		8			1	1	12	11	1	24	16
平成23年	107	9	7		1			1		1		4	1		4		2	6	4	12	2				6	6	8	15	18

別表Ⅰ－４
過去５年間の市町村別火災件数

	平成24年					平成23年					平成22年					平成21年					平成20年									
	合	建	林	車	船	そ の 他	合	建	林	車	船	そ の 他	合	建	林	車	船	そ の 他	合	建	林	車	船	そ の 他	合	建	林	車	船	そ の 他
	計	物	野	両	舶		計	物	野	両	舶		計	物	野	両	舶		計	物	野	両	舶		計	物	野	両	舶	
米子市	66	42		4		20	52	35		4		13	35	24	2	3	1	5	53	27		4		22	47	30		9		8
境港市	13	6		1		6	18	9		3		6	7	4		1	2	22	14				8	23	10				13	
日吉津村	2	1		1			1			1			1				1													
大山町	16	6	1			9	12	4	1	5		2	15	9			6	12	7	1	1		3	12	6	2	1		3	
南部町	5	3	1			1	5	3	1			1	10	7	1		2	1	1					3	3					
伯耆町	6	2	2			2	4	2		1		1	3	3				4	3		1			7	3		3		1	
日南町	2	2					8	6	1			1						5	1	2	2			6	5	1				
日野町	4	2		1		1	3	1	1			1	2	1		1														
江府町	1	1					4	2	1			1	3	1		1		3	1	1			1	5	4		1			
合 計	115	65	4	7		39	107	62	5	14		26	76	49	3	6	1	17	100	54	4	8		34	103	61	3	14		25

Ⅱ 救急概況

(平成24年1月～12月)

1 救急出動件数、救急搬送状況

平成24年中の救急出動件数は、前年に比べて123件増の9,951件、搬送人員は120人増の9,341人で、過去最多の救急件数となりました。
(別図Ⅱ－1、Ⅱ－2、Ⅱ－3参照)

2 市町村別救急活動状況

救急出動件数、救急搬送人員ともに増加しましたが、米子市、日野町、江府町は増加し、他市町村では減少となりました。

(別図Ⅱ－4参照)

3 傷病程度別搬送状況

傷病程度別の搬送人員では、中等症が4,527人(48.5%)で最も多く、次いで軽症が3,443人(36.9%)となっています。

(別図Ⅱ－5参照)

4 年齢別搬送状況

年齢別の搬送人員では、65歳以上の高齢者が5,646人(60.4%)と最も多くなっています。

(別図Ⅱ－6参照)

5 署所別救急活動状況

署所別では、米子消防署の出動件数及び搬送人員がそれぞれ3,620件(36.4%)、3,322人(35.6%)と最も多くなっています。

(別図Ⅱ－7参照)

6 月別救急活動状況

月別の出動件数は、7月が968件(9.7%)、続いて12月の896件(9.0%)となっています。

搬送人員は、7月が914人(9.8%)で最も多く、続いて12月の854人(9.1%)となっています。

(別図Ⅱ－8参照)

7 現場到着所要時間、収容所要時間

平均現場到着所要時間は7分30秒で前年より12秒の早着、平均収容所要時間は36分12秒で前年より8秒延着しました。

(別図Ⅱ－9、Ⅱ－10参照)

8 応急手当実施状況

心肺停止傷病者256人のうち、家族等により応急手当を受けた人は、125人(49%)でした。

(別図Ⅱ－11参照)

9 高度救命処置状況

心肺停止傷病者256人のうち救急救命士による高度救命処置を182人に行い、そのうち16人に回復が見られました。

(別図Ⅱ－12、Ⅱ－13参照)

10 救急講習件数の推移

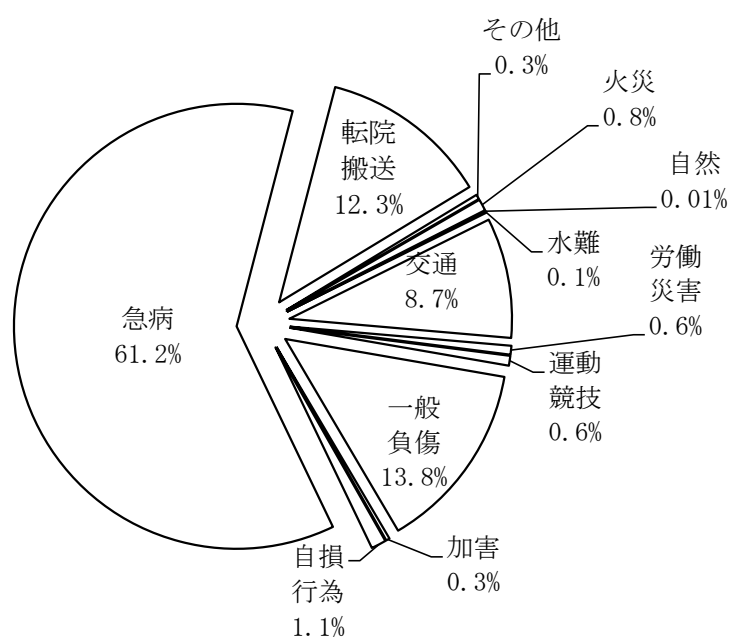
救急講習には、毎年約10,000人の方が受講され、圏域住民の応急手当に対する意識の高さがうかがえます。

(別図Ⅱ－14、Ⅱ－15、別表Ⅱ－1参照)

11 市町村別救急活動の推移

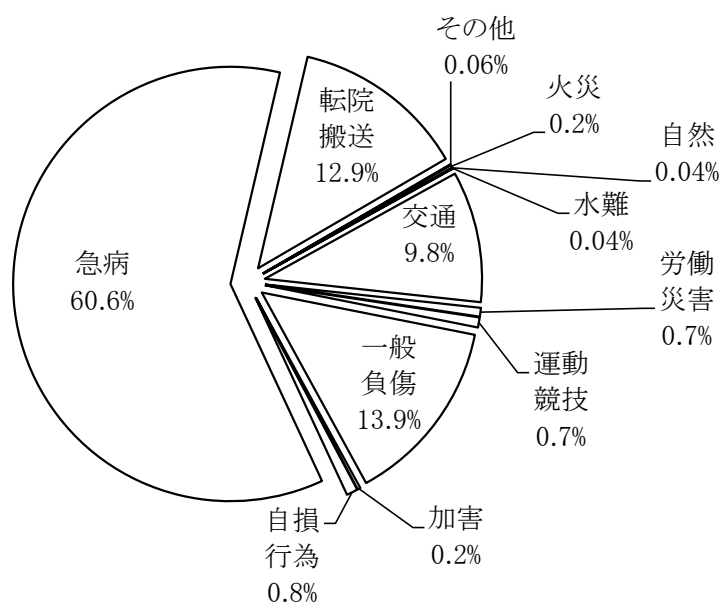
(別表Ⅱ－2参照)

別図Ⅱ-1 事故種別救急出動状況



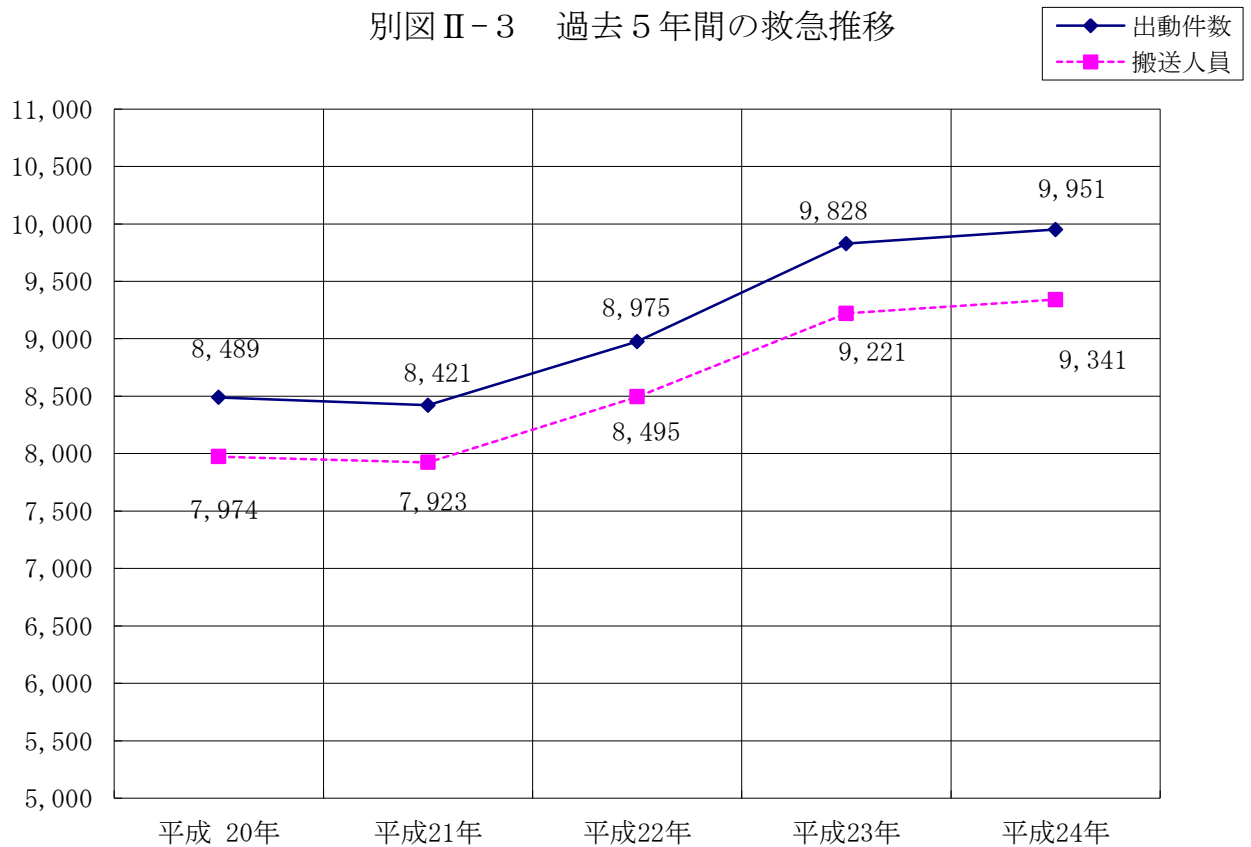
事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
出動件数	84	4	10	868	64	71	1,373	26	108	6,088	1,221	34	9,951

別図Ⅱ-2 事故種別救急搬送状況

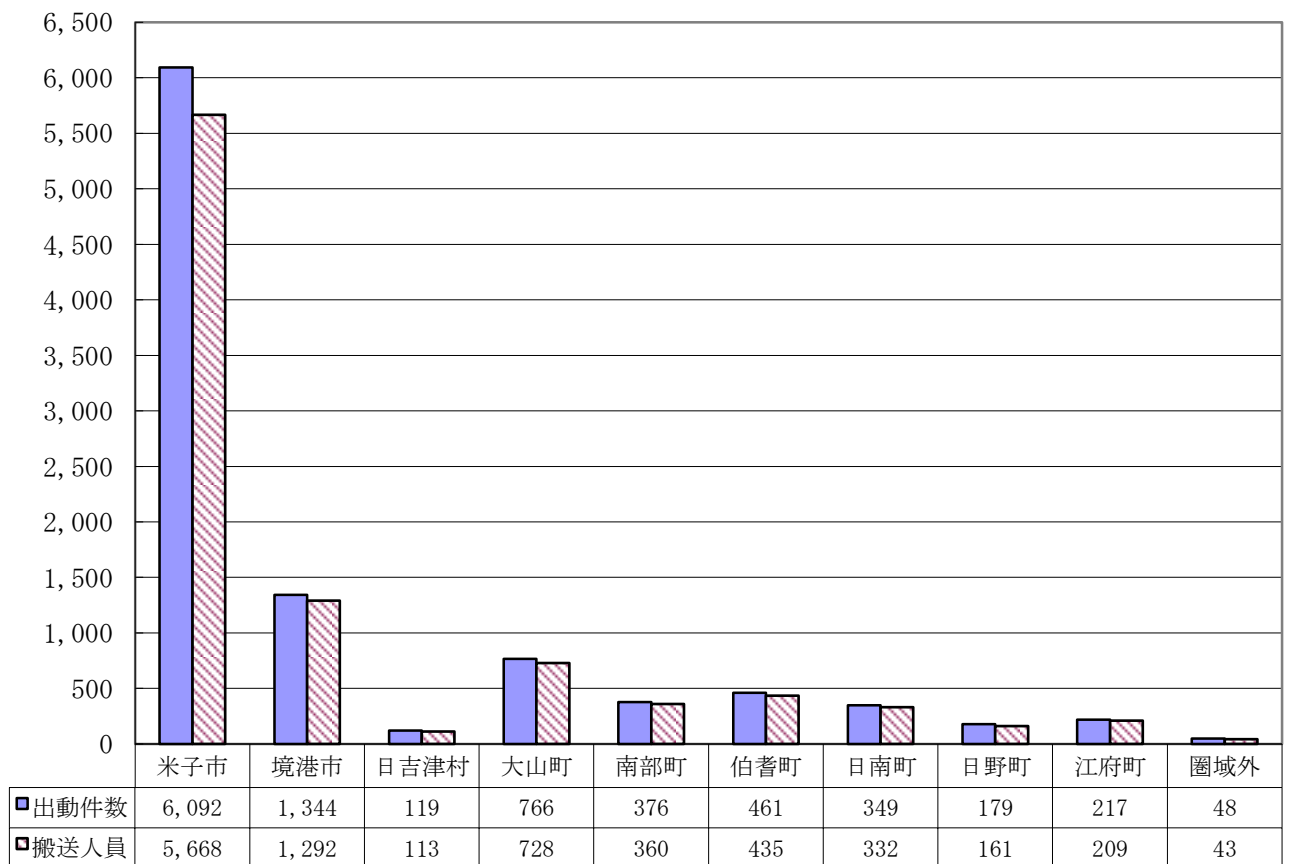


事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
搬送人員	19	4	4	912	61	70	1,299	20	78	5,659	1,209	6	9,341

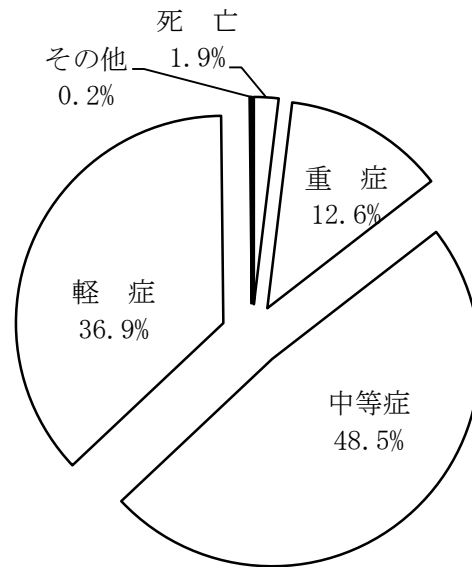
別図Ⅱ-3 過去5年間の救急推移



別図Ⅱ-4 市町村別救急活動状況

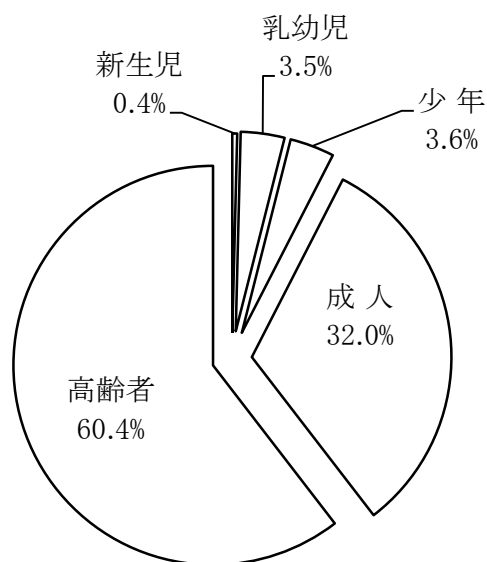


別図Ⅱ-5 傷病程度別搬送状況



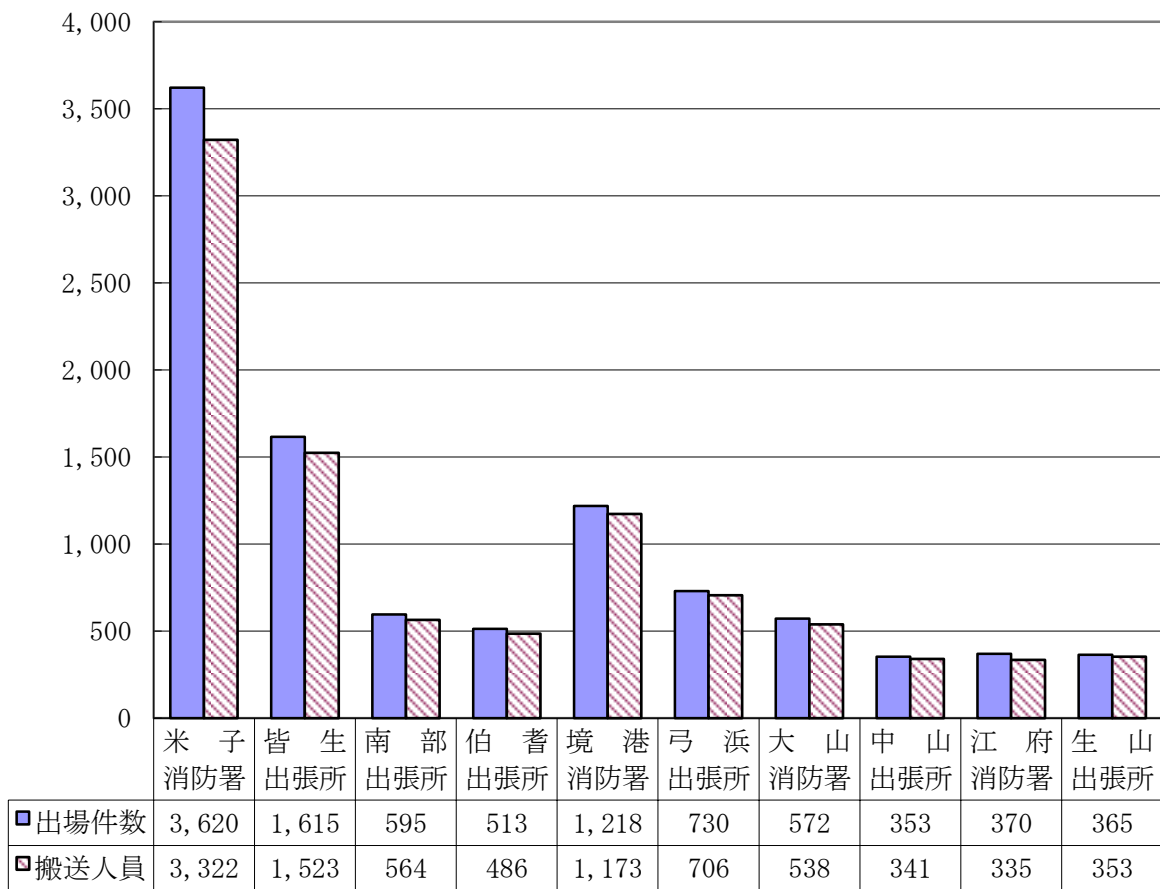
程 度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	合 計
搬送人員	179	1,176	4,527	3,443	16	9,341

別図Ⅱ-6 年齢別搬送状況

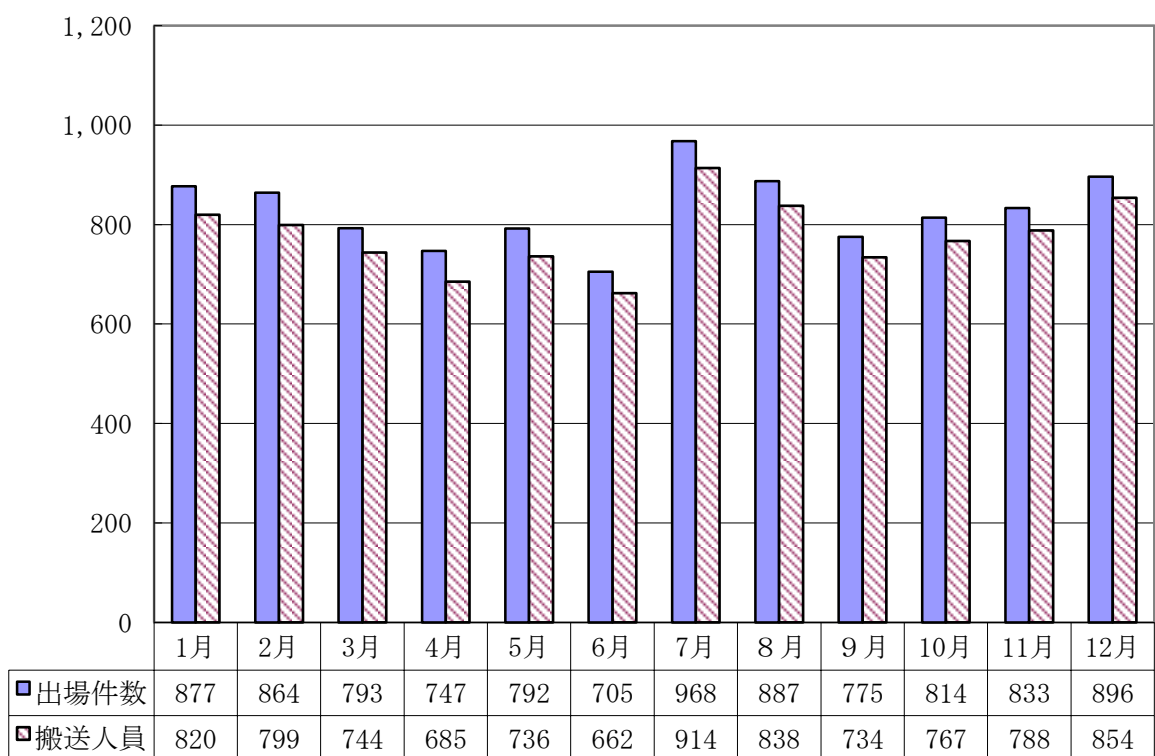


	新生児	乳幼児	少 年	成 人	高齢者	合 計
搬送人員	37	331	336	2,991	5,646	9,341

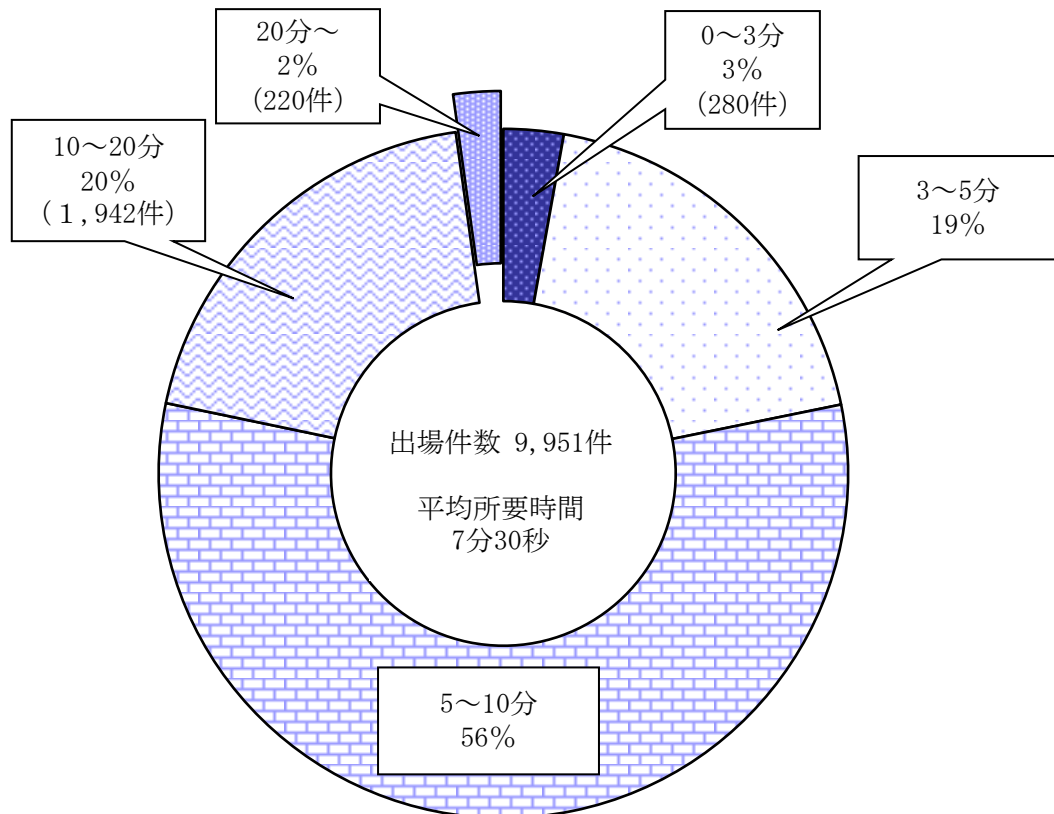
別図Ⅱ-7 署所別救急活動状況



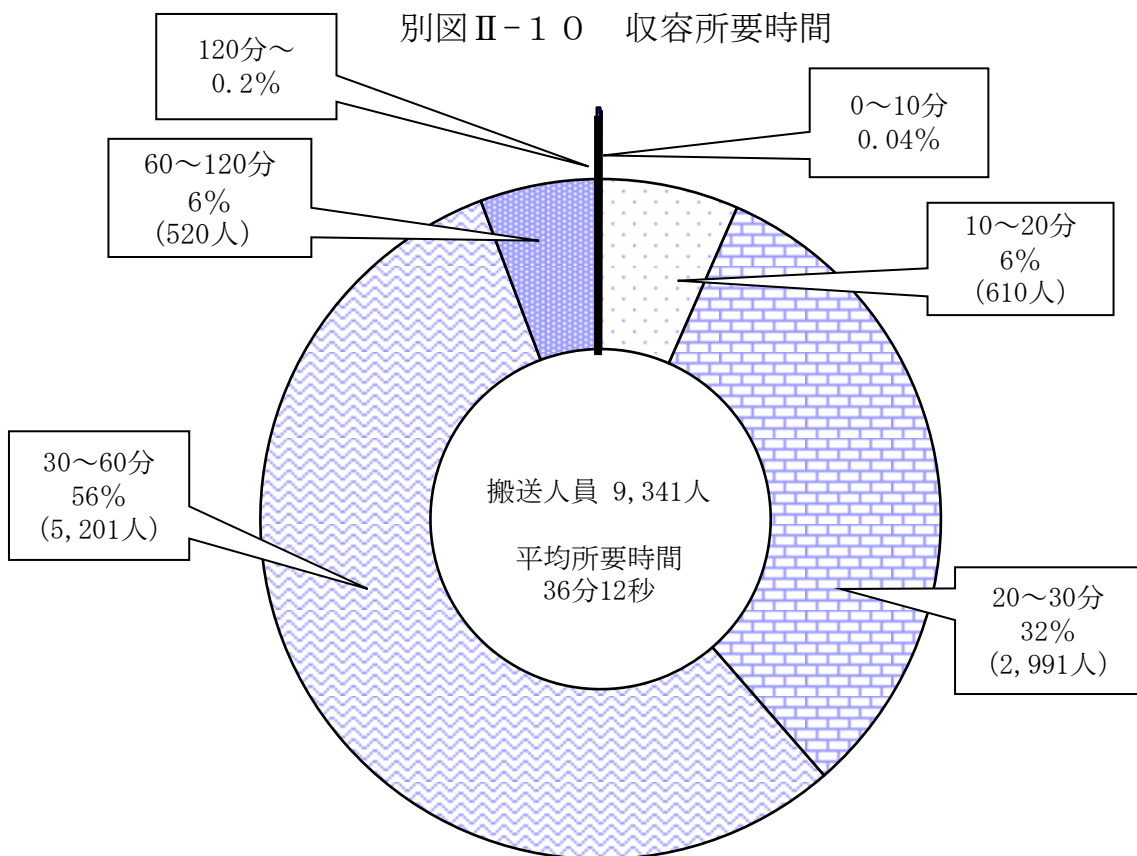
別図Ⅱ-8 月別救急活動状況



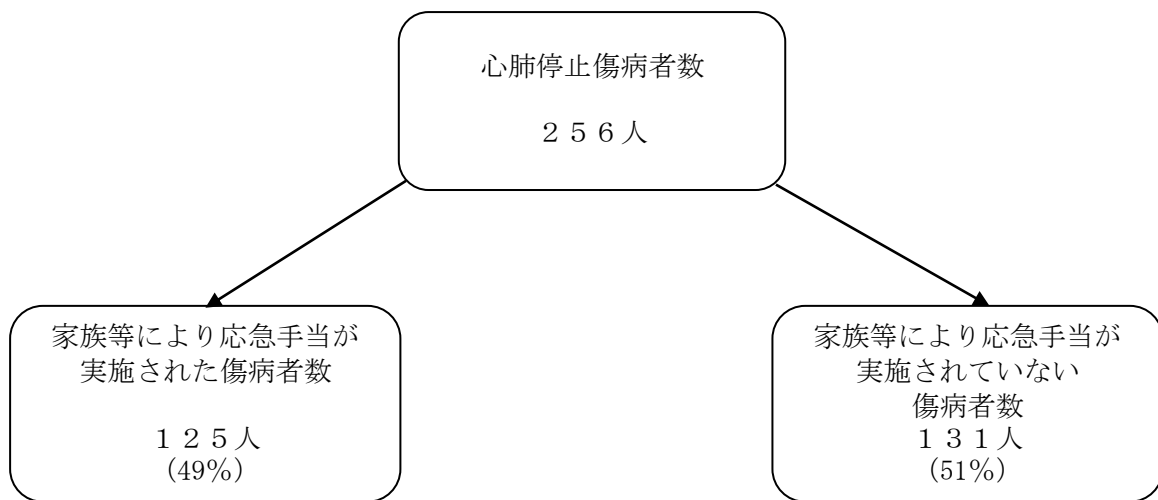
別図Ⅱ-9 現場到着所要時間



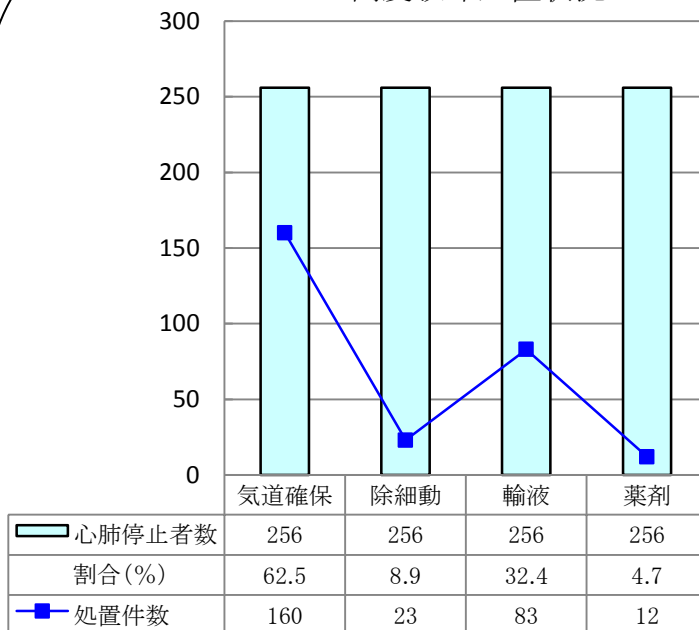
別図Ⅱ-10 収容所要時間



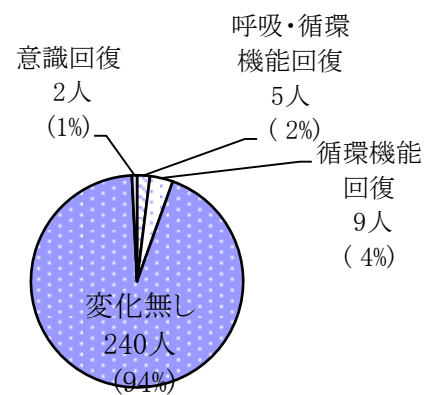
別図Ⅱ-11 応急手当実施状況



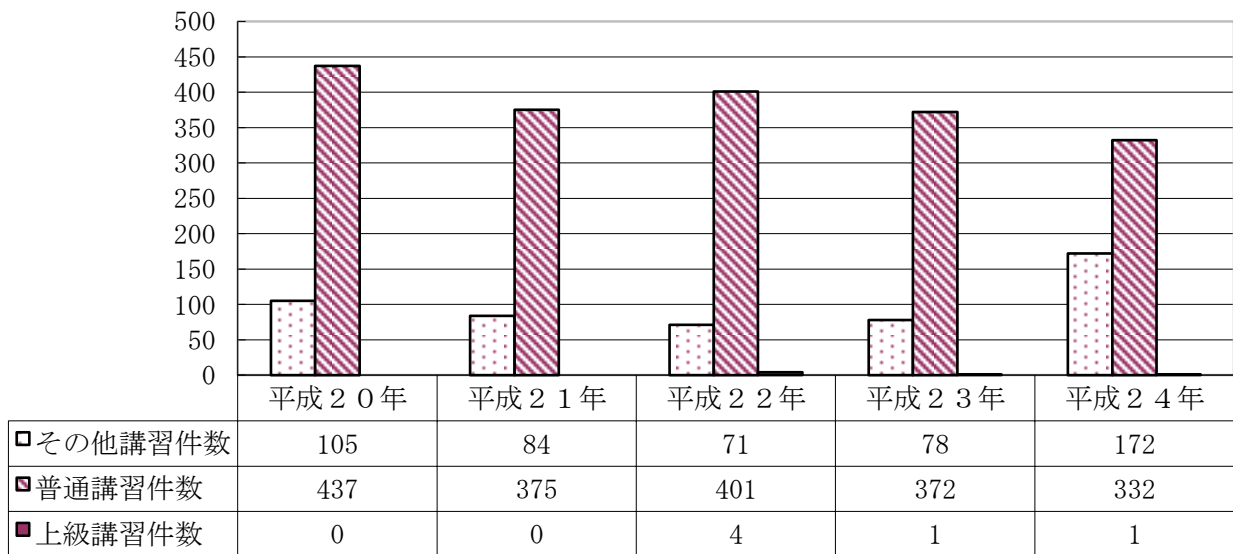
別図Ⅱ-12
高度救命処置状況



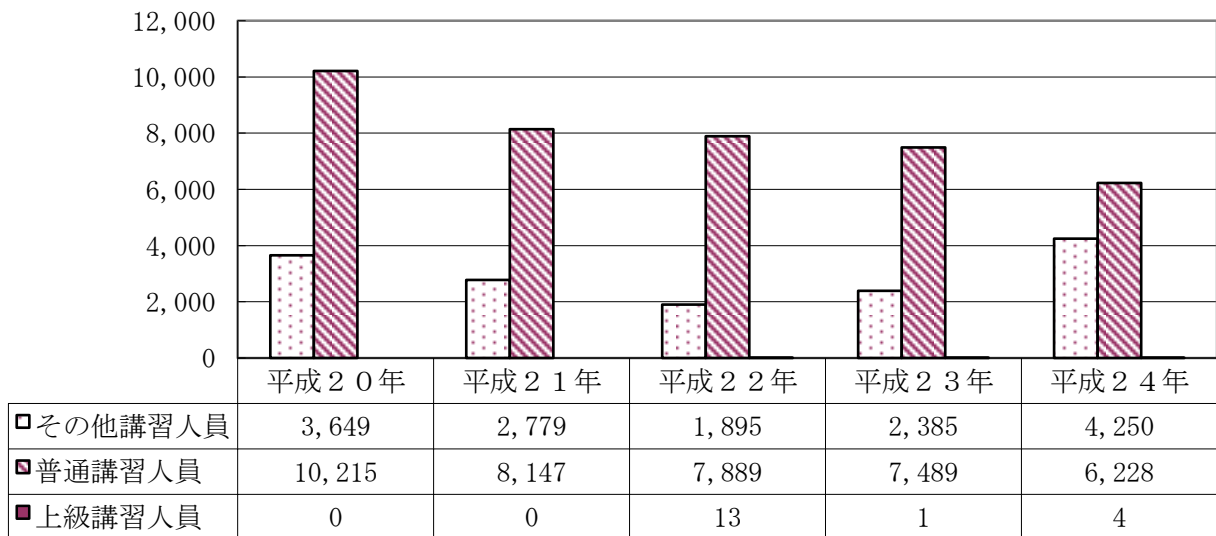
別図Ⅱ-13
医師引き継ぎ時の状況



別図Ⅱ－１４ 過去５年間の救急講習件数推移



別図Ⅱ－１５ 過去５年間の救急講習人員推移



別表Ⅱ－１ 応急手当指導員・普及員の養成

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
応急手当指導員	16	0	0	0	3
応急手当普及員	21	15	0	1	0

別表Ⅱ－2 過去5年間の市町村別救急件数

		平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
	件数					
米子市	件数	4,925	5,019	5,407	5,817	6,092
	人員	4,563	4,681	5,054	5,390	5,668
境港市	件数	1,207	1,105	1,143	1,357	1,344
	人員	1,144	1,049	1,103	1,283	1,292
日吉津村	件数	130	120	145	156	119
	人員	123	111	141	150	113
大山町	件数	697	711	729	836	766
	人員	674	672	705	812	728
南部町	件数	299	304	319	383	376
	人員	288	290	297	365	360
伯耆町	件数	443	395	456	470	461
	人員	422	380	442	447	435
日南町	件数	365	351	362	370	349
	人員	349	343	348	355	332
日野町	件数	189	168	204	177	179
	人員	185	160	201	169	161
江府町	件数	202	225	179	208	217
	人員	197	217	174	200	209
圏域外	件数	32	23	31	54	48
	人員	29	20	30	50	43
合計	件数	8,489	8,421	8,975	9,828	9,951
	人員	7,974	7,923	8,495	9,221	9,341

Ⅲ 救助概況

(平成24年1月～12月)

1 事故種別救助出動状況

救助出動件数は168件あり、そのうち交通事故が74件(44.0%)、その他の事故が46件(27.4%)、火災が30件(17.9%)、水難事故が10件(6.0%)、建物等による事故が4件(2.4%)、機械による事故が4件(2.4%)等の順となっています。なお、風水害等自然災害での救助出動はありませんでした。

(別図Ⅲ—1参照)

2 事故種別救助活動状況

救助活動件数は118件あり、そのうち交通事故が42件(35.6%)、その他の事故が35件(29.7%)、火災が30件(25.4%)、水難事故が5件(4.2%)、建物等による事故3件(2.5%)、機械による事故3件(2.5%)等の順となっています。

(別図Ⅲ—2参照)

3 事故種別救助人員状況

救助活動により救助された人員は96人あり、そのうち交通事故が49人(51.0%)と最も多く、次いでその他の事故が33人(34.4%)、火災等による事故が5人(5.2%)、水難事故が4人(4.2%)、機械による事故が3人(3.1%)、建物等による事故2人(2.1%)、等となっています。

(別図Ⅲ—3参照)

4 管轄別救助活動状況

消防署の管轄別に出動件数を見ると、米子消防署が93件(55.4%)と最も多く、次いで大山消防署が35件(20.8%)、江府消防署が21件(12.5%)、境港消防署が19件(11.3%)の順となっています。

(別図Ⅲ—4参照)

5 市町村別救助活動状況

市町村別に救助活動状況を比較して見ると、出動件数、活動件数、救助人員ともに、米子市が最も多く出動件数73件(43.5%)、次いで大山町が33件(19.6%)、境港市が15件(8.9%)、伯耆町が10件(6.0%)等の順となっており、他米子道、山陰道、管轄外へも出動しています。

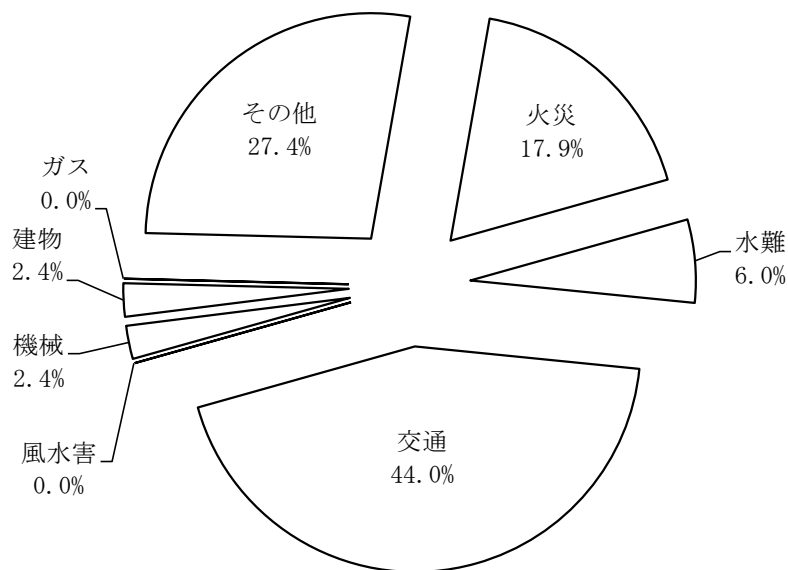
(別図Ⅲ—5参照)

6 月別救助活動状況

月別の救助出動件数を見ると、7月が19件(11.3%)と最も多く、次いで10月・11月が18件(10.7%)、1月が16件(9.5%)等の順となっています。

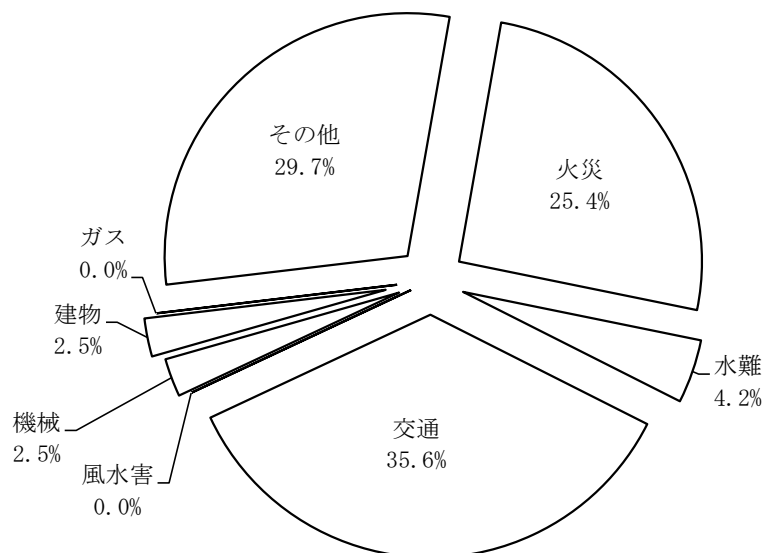
(別図Ⅲ—6参照)

別図Ⅲ-1 事故種別救助出動状況



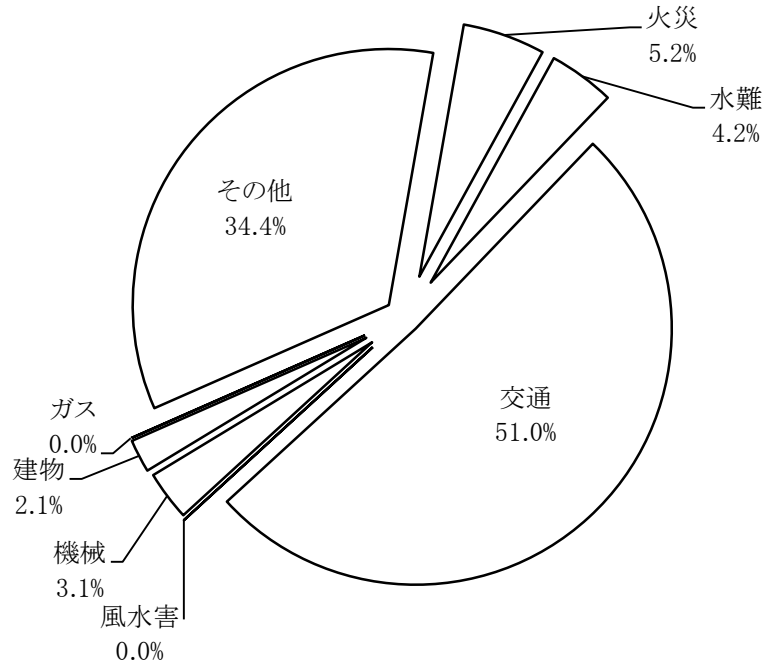
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
出場件数	30	10	74	0	4	4	0	0	46	168

別図Ⅲ-2 事故種別救助活動状況



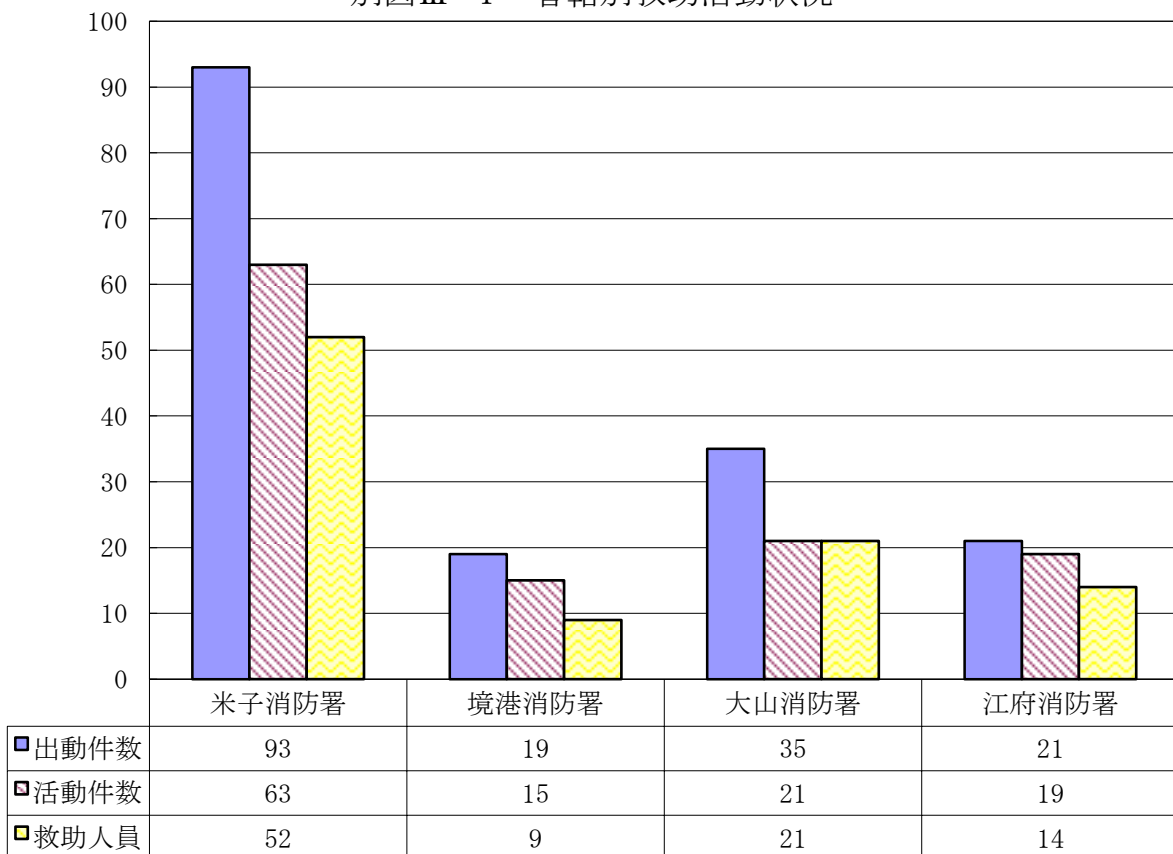
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
活動件数	30	5	42	0	3	3	0	0	35	118

別図Ⅲ-3 事故種別救助人員状況

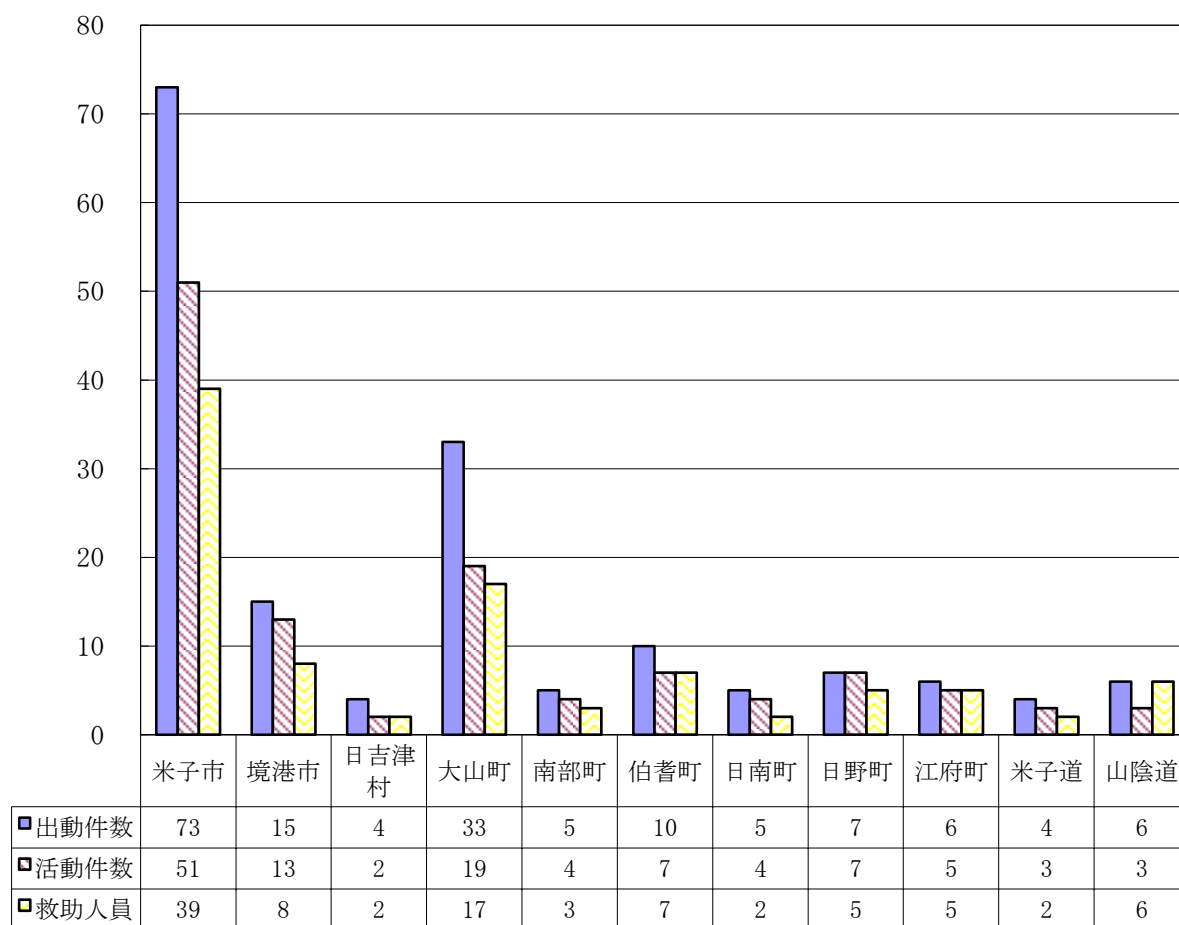


事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
救助人員	5	4	49	0	3	2	0	0	33	96

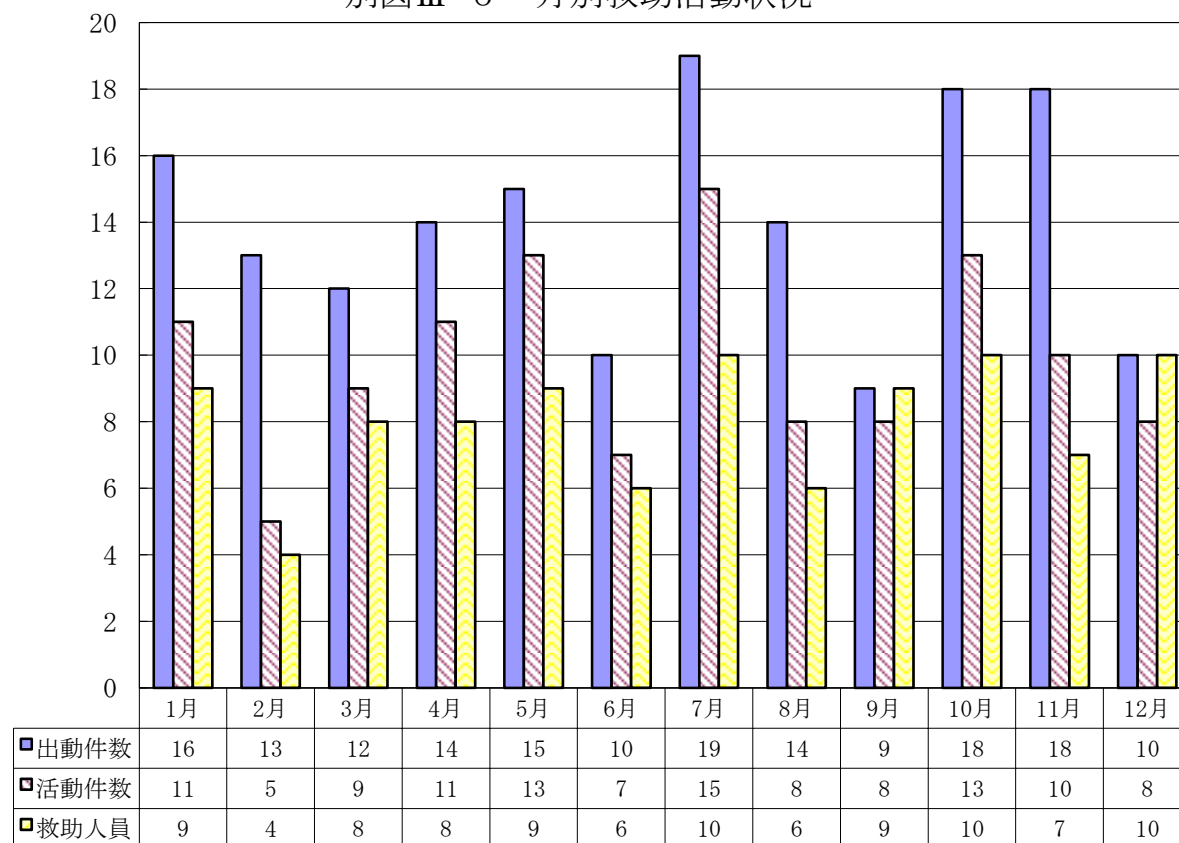
別図Ⅲ-4 管轄別救助活動状況



別図Ⅲ-5 市町村別救助活動状況



別図Ⅲ-6 月別救助活動状況



IV 119番着信概況

(平成24年1月～12月)

1 着信件数の推移

平成24年中の119番通報は、総着信件数13,358件で昨年に比べ357件(2.6%減)少なくなっています。1ヶ月平均にすると約1,113件、1日平均では約36件の着信となります。通報種別としては、救急が最も多く9,564件(71.6%)でした。火災は199件(1.5%)、その他の通報としては、救助74件(0.6%)、警戒89件(0.7%)、間違い616件(4.6%)、通報訓練等1,696件(12.7%)、病院などに関する問い合わせ等1,000件(7.5%)となっており、悪戯と思われるものが120件(0.9%)でした。(別表Ⅳ-1参照)

2 月別の着信状況

月別で着信件数の最も多かったのは7月の1,227件で、これは暑さによる救急の増加によるものが影響していると考えられます。逆に最も少なかったのは6月の1,001件でした。救急通報では、最も多かったのは7月の915件、逆に最も少なかったのは6月の673件で、月平均約797件でした。火災通報では、最も多かったのは8月の30件、逆に最も少なかったのは2月と9月の10件で、月平均約16件でした。(別表Ⅳ-2参照)

3 電話種別による通報状況

I P 電話からの通報は年々増加傾向を示していますが、携帯電話からの通報は減少しました。災害別に電話種別による通報状況をみると、火災、救助、警戒など衆人に発見されやすいものについては携帯電話での通報比率が高く、救急など屋内での発生が多いものについては固定電話(I P 電話含む)での通報比率が高くなっています。(別表Ⅳ-3、Ⅳ-4参照)

4 携帯電話からの着信状況

携帯電話からの119番通報は4,004件で、全着信件数の約30%でした。また、携帯電話からの問合せ、間違いなどの通報が多くみられます。

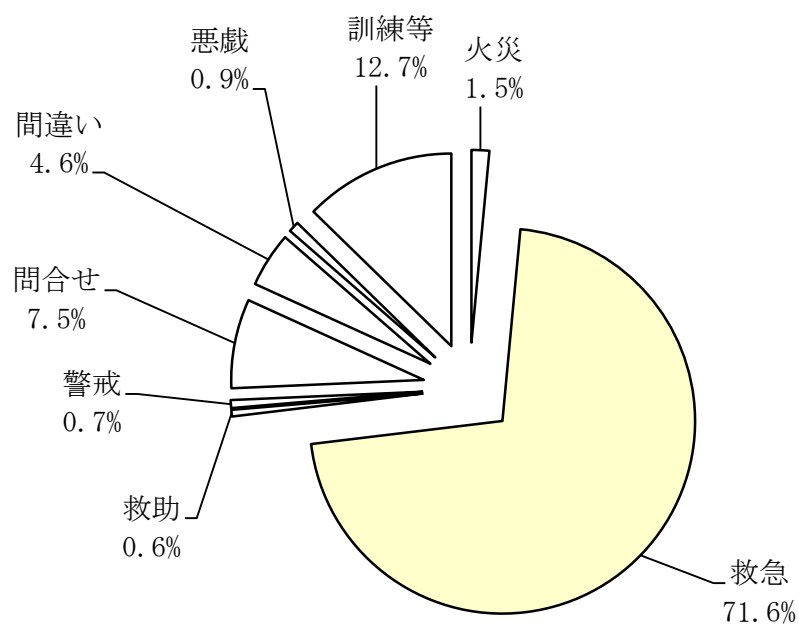
隣県などの管轄地区以外からの携帯電話による通報を、他の消防機関へ転送処理した件数は51件で、逆に他の消防機関から転送受信した件数は28件ありました。(別表Ⅳ-5、Ⅳ-6参照)

5 時間帯別119番通報の着信状況

時間帯別に119番通報の着信比率を見ると、一般的な活動時間帯(午前8時～午後9時台)では全体の約80%で、睡眠時間帯(午後10時～午前7時台)では約20%でした。(別図Ⅳ-7参照)

別表Ⅳ－1 119番着信件数の推移

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
平成20年	192	8,162	53	107	1,054	877	147	1,225	11,817
平成21年	193	8,126	62	102	1,110	766	139	1,311	11,809
平成22年	159	8,663	54	102	1,206	769	107	1,662	12,722
平成23年	300	9,435	57	116	1,301	693	162	1,651	13,715
平成24年	199	9,564	74	89	1,000	616	120	1,696	13,358

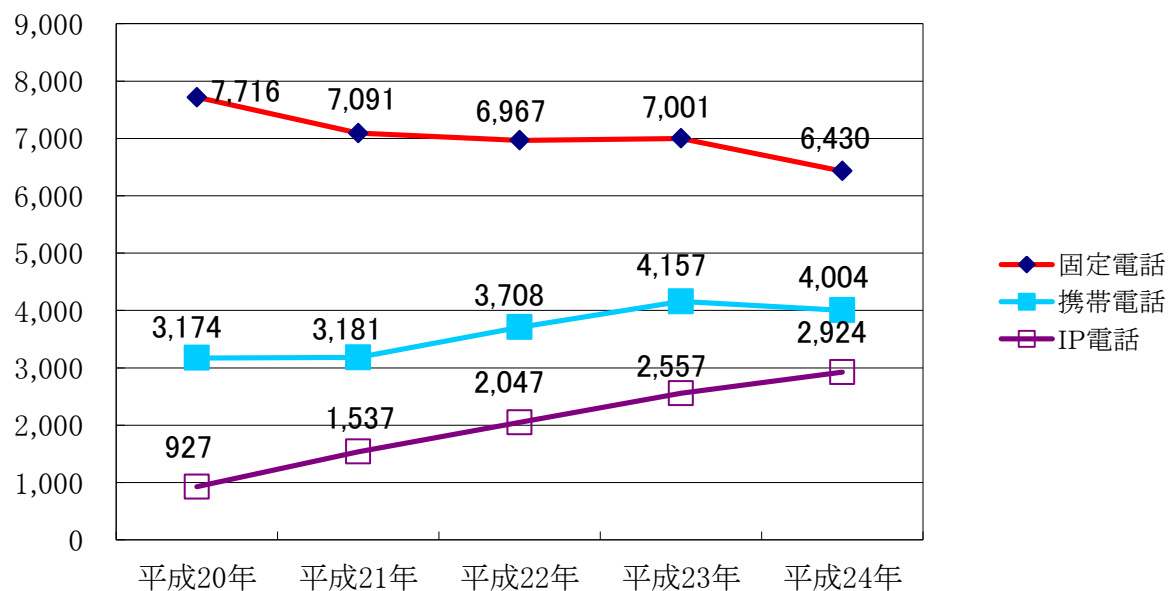


別表Ⅳ－2 月別119番着信状況

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
1月	17	855	7	4	88	39	6	77	1,093
2月	10	824	4	5	64	52	6	102	1,067
3月	11	769	5	5	62	48	7	188	1,095
4月	25	712	6	12	82	57	16	109	1,019
5月	21	752	5	7	89	46	11	178	1,109
6月	16	673	2	9	88	49	17	147	1,001
7月	18	915	8	11	106	42	9	118	1,227
8月	30	845	11	8	110	51	13	98	1,166
9月	10	749	1	7	82	52	9	125	1,035
10月	11	805	6	4	78	53	10	179	1,146
11月	18	790	11	9	71	51	3	228	1,181
12月	12	875	8	8	80	76	13	147	1,219
合計	199	9,564	74	89	1,000	616	120	1,696	13,358
月平均	16.6	797.0	6.2	7.4	83.3	51.3	10.0	141.3	1,113.2

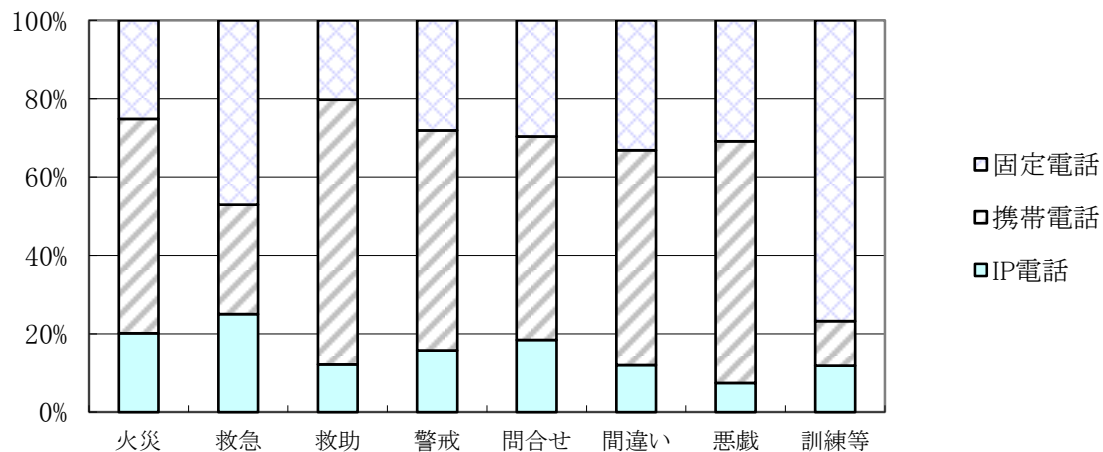
別表Ⅳ－3 電話種別による119番着信件数の推移

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
固定電話	7,716	7,091	6,967	7,001	6,430
携帯電話	3,174	3,181	3,708	4,157	4,004
IP電話	927	1,537	2,047	2,557	2,924
合計	11,817	11,809	12,722	13,715	13,358



別表Ⅳ－4 電話種別による通報状況

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
固定電話	50	4,501	15	25	296	204	37	1,302	6,430
携帯電話	109	2,670	50	50	520	338	74	193	4,004
IP電話	40	2,393	9	14	184	74	9	201	2,924
合計	199	9,564	74	89	1,000	616	120	1,696	13,358



別表Ⅳ－５ 携帯電話からの着信状況

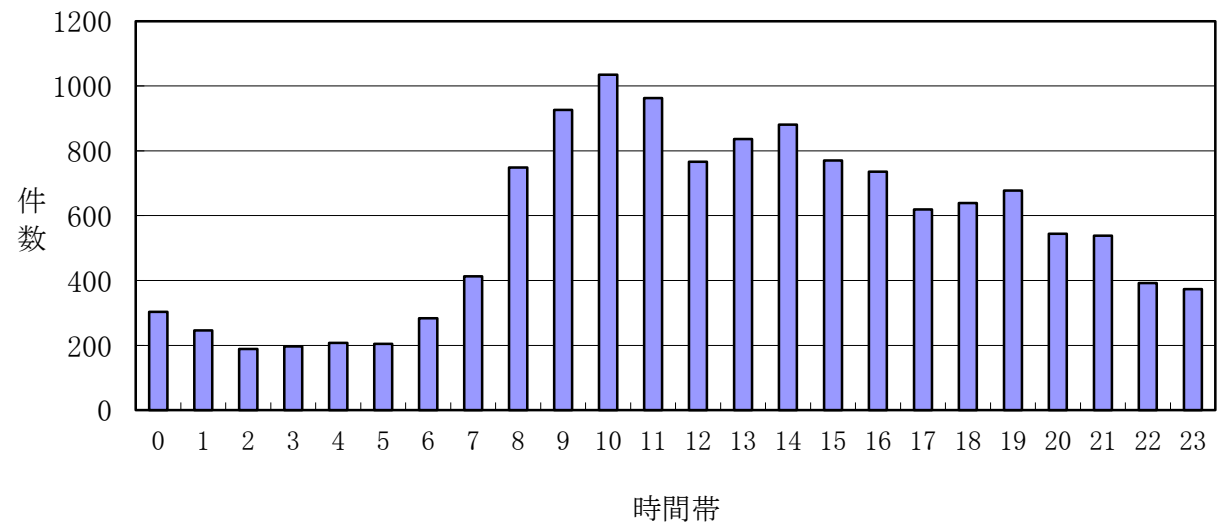
西部消防圏域内の災害などの着信件数			他の消防機関に転送をした件数
直接通報を受けた件数	他の消防機関から転送受信した件数	総着信件数	
3,976	28	4,004	51

別表Ⅳ－６ 携帯電話の消防機関別転送状況

他の消防機関から転送を受信した件数					他の消防機関に転送した件数				
消防	火災	救急	その他	合計	消防	火災	救急	その他	合計
松江		8	1	9	松江	1	27	2	30
安来	1	3	4	8	安来		12		12
雲南					雲南				
東部		1		1	東部		1		1
中部		8		8	中部		6	1	7
新見					新見				
美作地区			2	2	美作地区	1			1
備北					備北				
合計	1	20	7	28	合計	2	46	3	51

※美作地区:美作地区消防指令センター(津山圏域消防,真庭市消防,美作市消防共同運用)

別図Ⅳ－７ 時間帯別着信状況



消すまでは 出ない行かない 離れない

平成24年度全国統一防火標語

火災情報テレホンガイド 0859-22-0119

防火・救急に関するご相談・お問い合わせ

お気軽に最寄りの消防署へどうぞ

名 称	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
消 防 局	米子市両三柳5452番地	683-0853	0859-35-1951
米子消防署	米子市富士見町一丁目103番地1	683-0055	0859-39-0251
米子消防署皆生出張所	米子市皆生五丁目8番5号	683-0003	0859-39-0253
米子消防署南部出張所	西伯郡南部町清水川3番地1	683-0321	0859-39-6003
米子消防署伯耆出張所	西伯郡伯耆町溝口20番地4	689-4201	0859-39-9001
境港消防署	境港市中野町2116番地	684-0041	0859-47-0119
境港消防署弓浜出張所	米子市大篠津町2913番地1	683-0101	0859-48-2005
大山消防署	西伯郡大山町末吉403番地2	689-3331	0859-39-5002
大山消防署中山出張所	西伯郡大山町長野880番地3	689-3132	0858-49-3001
江府消防署	日野郡江府町武庫1390番地3	689-4411	0859-77-2001
江府消防署生山出張所	日野郡日南町生山349番地1	689-5211	0859-77-1001

※本概況に関するお問い合わせは下記にお願いします。

火災…………… 予防課予防係 0859-35-1954
救急救助…………… 警防課救急救助係 0859-35-1959
119番着信状況…指令課指令係 0859-35-1960

平成25年2月発行

〒683-0853 米子市両三柳5452番地

鳥取県西部広域行政管理組合消防局

TEL 0859-35-1951(代)